

第9回 岐阜県鳥獣被害対策本部員会議



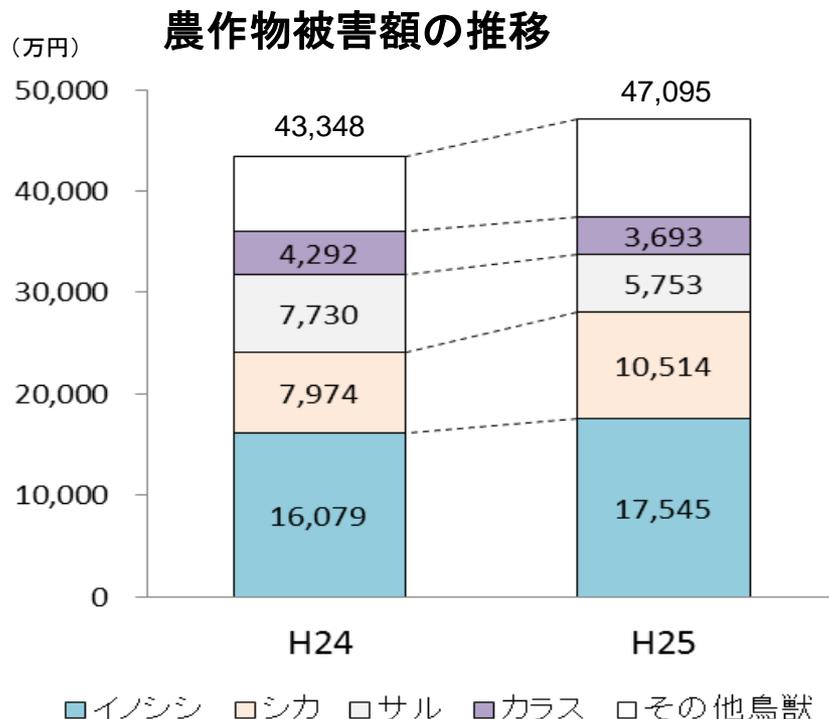
**平成26年11月18日(火)10:00~
4F特別会議室**

1 今年度の対策の進捗状況等について

(1) 集落調査結果の報告

◆平成25年度県内農作物被害額について

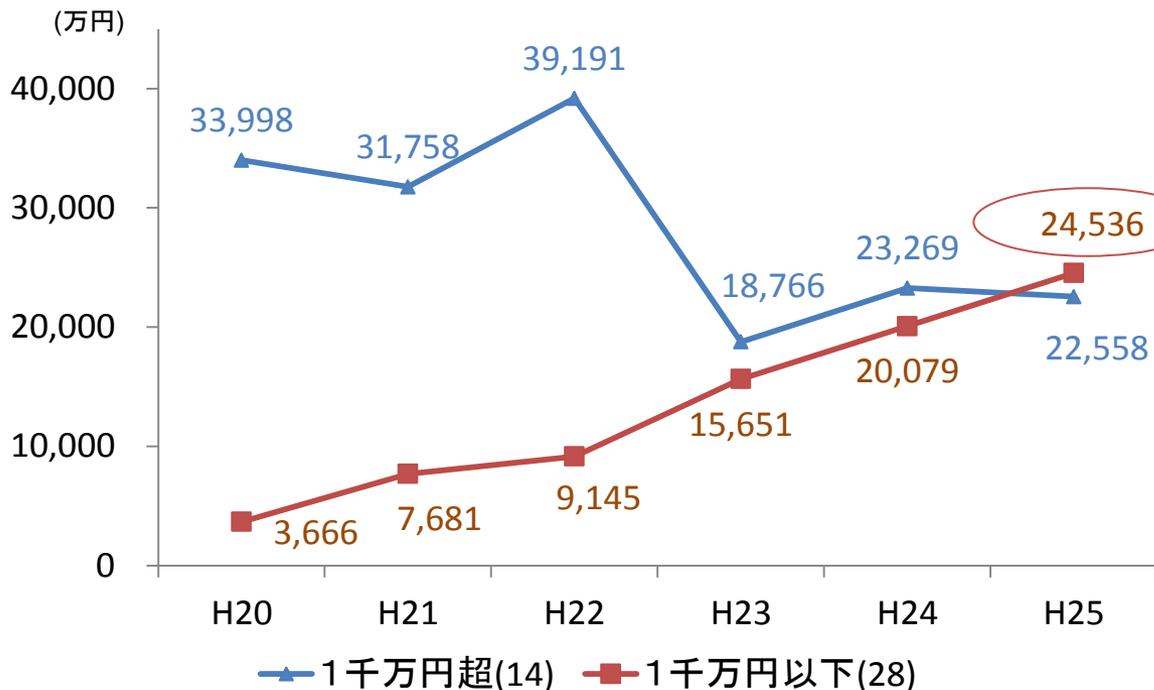
※ 25年度の県内農作物の被害額は4億7千万円(前年度比109%)となった



【被害の特徴】

- ◆イノシシ、シカ、サルで被害額全体の72%を占める
- ◆シカの被害が前年比32%増加し、初めて1億円を超えた

●対策投資額(H20～H24国補事業活用額)別の農作物被害額



H20～H24 国補事業活用額	市町村数
1千万円超	14
1千万円以下	28

※ 1千万円以下には国補事業未実施市町村を含む。

H20比
約7倍

【地域的な傾向】

対策に係る補助制度等を積極的に活用している市町村では被害額がおおむね減少しているが、対策の遅れている市町村では増加している傾向

H26集落実態調査

◆調査集落 2,282集落

※前回23年度調査で被害のあった1,849集落、
および今回被害が報告された433集落

◆調査内容

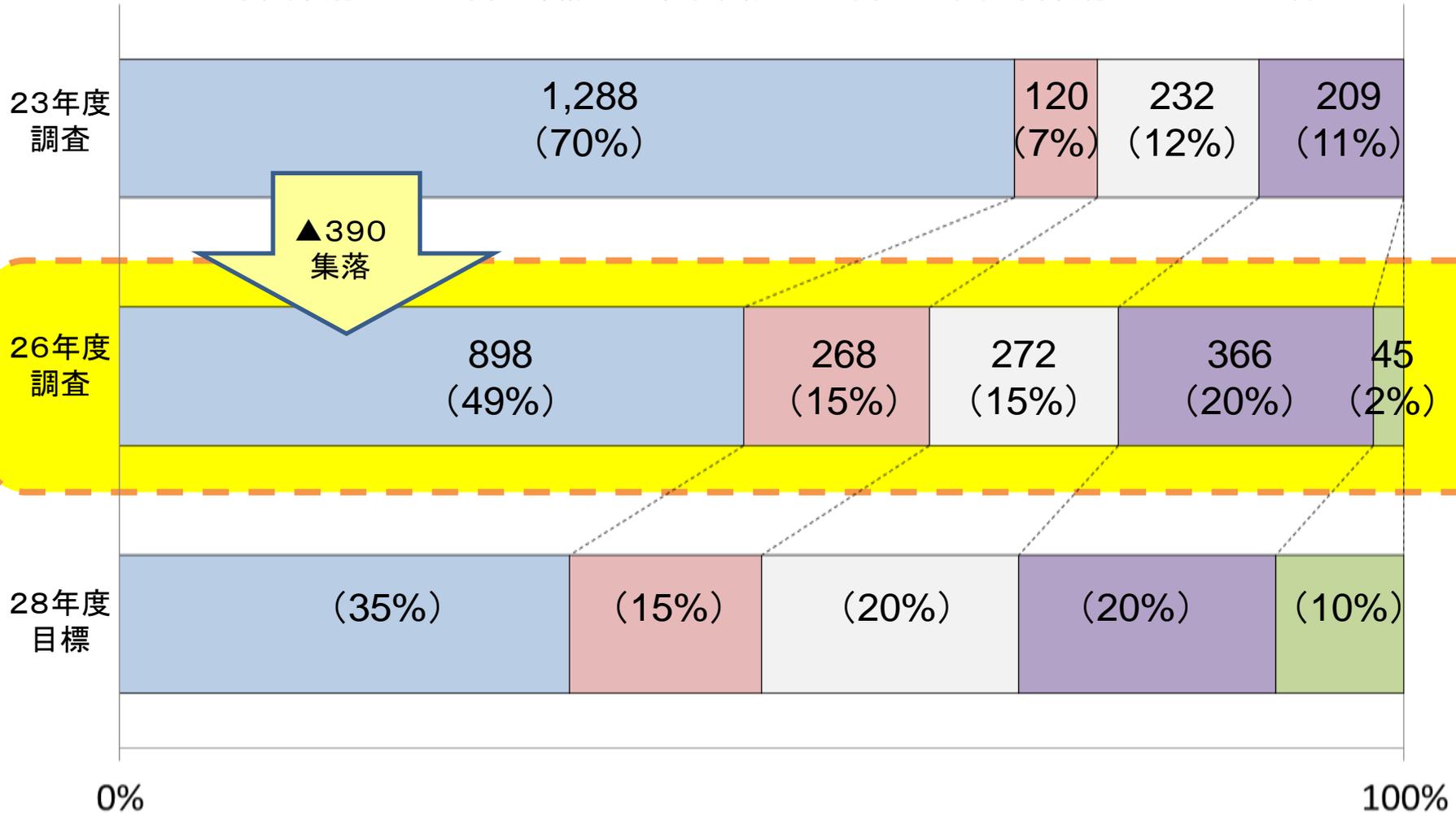
対策の取組状況に応じたレベル(0~4)の確認、他

対策レベル	取組状況
4 【自立】	集落自らが <u>行政の指示を待たず</u> に被害対策を実践している
3 【対策実施】	捕獲や集落環境整備などを含む <u>総合的な対策が実施</u> されている
2 【体制整備】	対策に取り組むための <u>実行組織</u> があり、何らかの対策が実施されている
1 【準備】	集落ぐるみで対策に取り組むための <u>研修会や情報共有</u> が行われている
0 【対策未実施】	被害は把握しているものの <u>集落ぐるみによる対策が行われていない</u>

被害集落における取組状況（1,849集落の推移）

（単位：集落数）

■ レベル0 (対策未実施) ■ レベル1 (対策の準備) □ レベル2 (実行組織による対策) ■ レベル3 (総合対策実施) ■ レベル4 (自立・自衛)



「レベル0」を、23年度比で半減させることについて、引き続き取り組んでいく

(2) H26 鳥獣被害対策に係る啓発活動

◆重点支援地区での取組

東白川村

★猪鹿鳥無猿柵の設置 550m
(H26. 7. 10 参加者25名)



中津川市

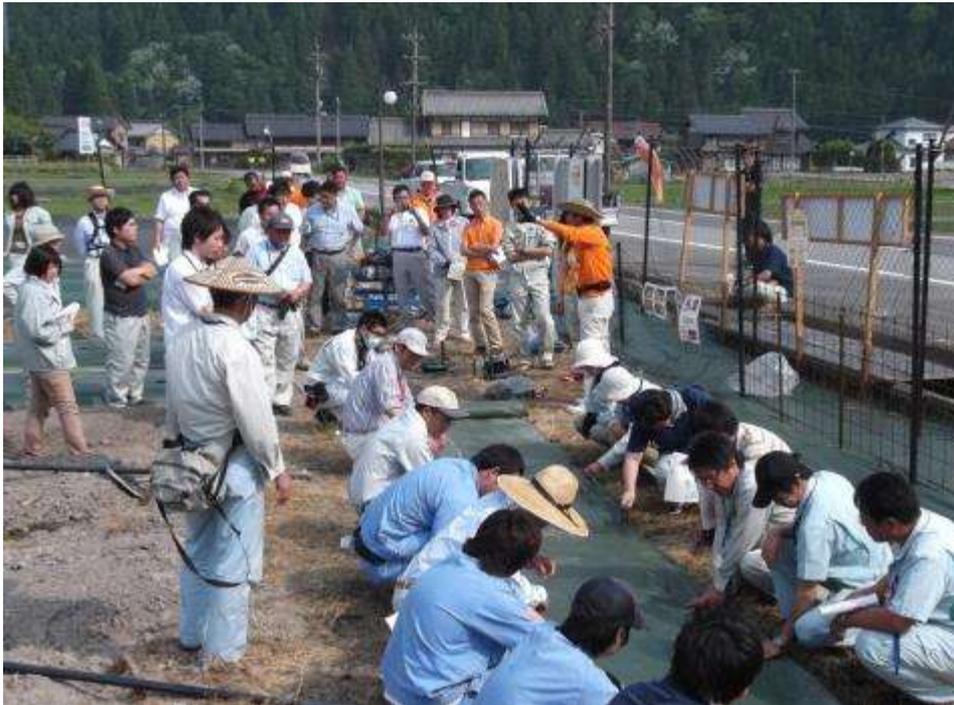
★猪鹿鳥無猿柵の設置 360m
(H26. 8. 30 参加者30名)



◆「退散鳥獣・草園(たいさんちょうじゅうそうえん)」による研修会

郡上市

- 今年度、郡上市和良町「道の駅和良」付近に、鳥獣被害対策と耕作放棄地防止対策のための資材を展示した体験施設「退散鳥獣・草園」を整備
- 宮地地区の集落協定が管理し、県内外からの視察にも対応
- 宮地地区の鳥獣被害対策の取組が評価され、平成26年度農林水産祭において日本農林漁業振興会会長賞(全国第3席)を受賞



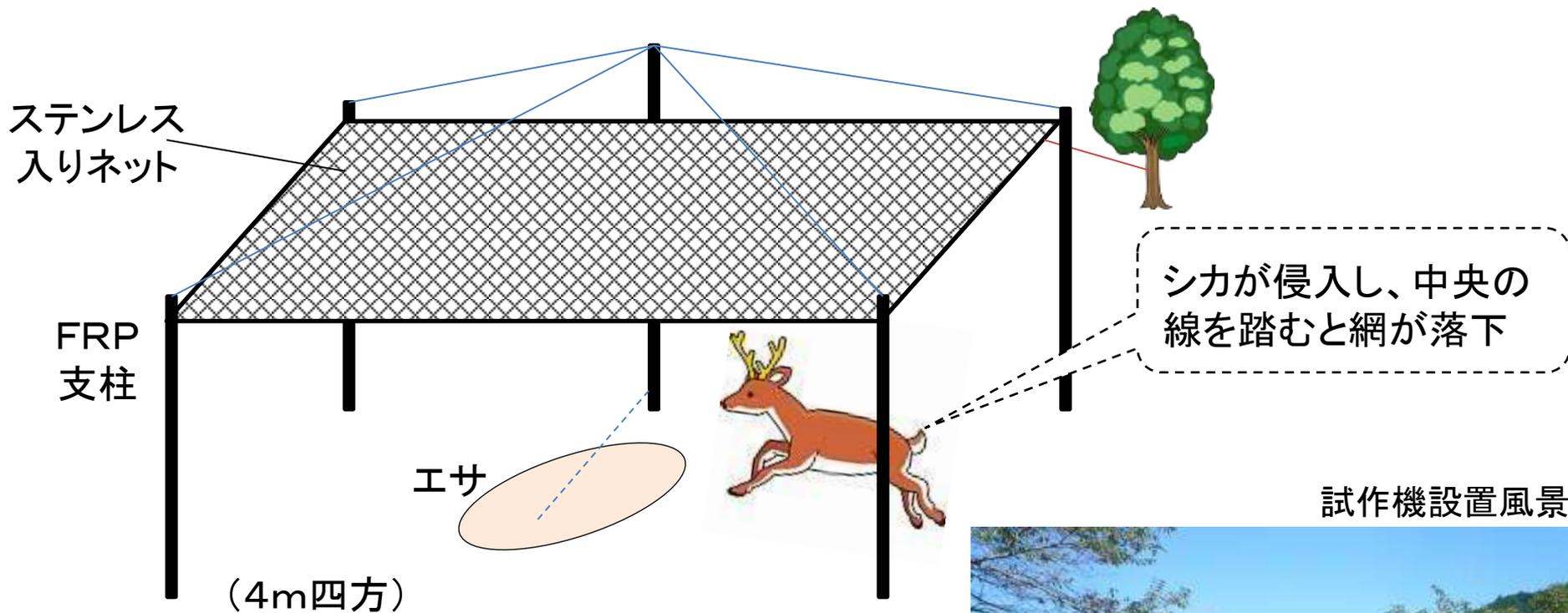
展示内容

- ◇最新の猪鹿鳥無猿柵
- ◇各種の猪鹿鳥無猿柵
(電気牧柵、ワイヤーメッシュ柵、など)
- ◇幸作シートの設置
(水田畦畔、農道法面、畑の畝、など)
- ◇最新の退散鳥獣
(ロケット花火
発射装置)
- ◇絆ベスト
- ◇絆ステッカー



◆「落とし網方式」によるシカ捕獲実証

郡上市



試作機設置風景



- ◆試作機は4m四方ほどで小型
(1匹を捕るためのわな)
- ◆大人5人で1時間ほどで設置
(移動も軽トラックで可能)
- ◆試作機の資材費は5万円ほど

◆鳥獣被害対策推進月間の活動

スローガン：「集落の絆で防ごう 鳥獣被害！」

- 11月を「鳥獣被害対策推進月間」と位置付け、集落ぐるみによる効果的な対策の普及啓発活動を実施
- メインイベントとして「鳥獣被害対策フォーラム」を開催
その他、各地で防護柵設置研修会や捕獲技術向上研修などを実施

◎岐阜県鳥獣被害対策フォーラム

- ・日 時：平成26年11月5日（水） 13：15～16：20
- ・場 所：可児市文化創造センター小劇場（可児市）

参加
200人

○岐阜大学による研究成果報告

岐阜大学野生動物管理学研究センター 角田 准教授・森部 助教

○地域ぐるみによる防護の取組事例報告

富加町、大野町、飛騨市

○県全域での取組み報告

カワウの食害対策、ジビエの取組

○事例発表総括 ～平成の里人～

県農村振興課 酒井鳥獣害対策監

※ 資材等展示（環境生活部、林政部、農政部）



◆カワウ被害対策指針の作成状況

●生息羽数と食害状況の調査

1. カワウ生息羽数の調査

○河川内・コロニー・ねぐらの一斉羽数調査
(7月23日)

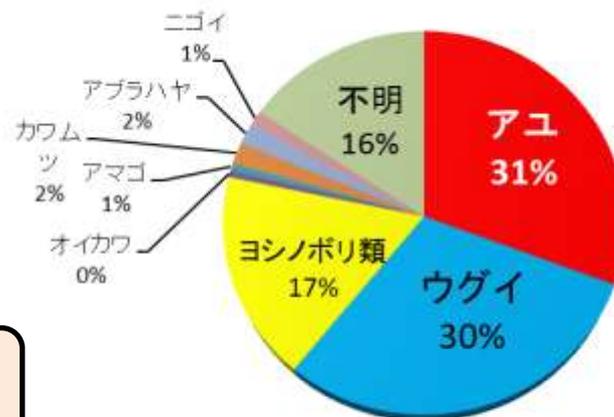
県内で1969羽を確認

河川内	船附コロニー	徳山ねぐら	その他ねぐら	合計
770羽	495羽	302羽	402羽	1969羽

2. 食害状況の調査

○ねぐらで捕獲したカワウの胃内容物調査

アユとウグイを主に捕食



カワウ胃内容物の組成(個体数比)

●関係者(県、漁協、河川管理者、専門家)による協議

○第1回カワウ被害対策研究会を開催(8月20日)

意見

- ・継続的なモニタリングが必要
- ・広域連携による対策が必要

調査内容

- ・平成26年5-7月調査
- ・全て岩屋ダム
- ・調査個体数=58羽

→ 年度末にカワウ被害対策指針(案)を策定

(3) ニホンジカの捕獲促進

○わな捕獲技術向上のための研修会を開催

実施期間：4月～11月

対象：わな免許所持者 約400人

会場：岐阜市、郡上市、白川町など10会場

内容：長野県上伊那地区の取り組み紹介

岐阜大学助教 森部 絢嗣氏

猟友会員による実技講習

「誘引誘導型捕獲法」

「上伊那式くくりわなの設置」



〇わな捕獲を中心とした捕獲体制整備モデル事業

【ねらい】 ニホンジカの捕獲を進めるために、地域住民が連携して、くくりわな等を活用した捕獲体制を整備する際に必要な経費を補助

【対象地区】 ・ニホンジカの生息密度が高い地域
・地域住民が連携した捕獲が可能な地域

【補助対象】

- ・くくりわな購入費
- ・講習会開催費
- ・センサーカメラ購入費
- ・狩猟免許取得費 その他



＜参考＞

- 上伊那猟友会のわな
- ・市販の資材で、安価に作成・修理可能
 - ・大量捕獲に貢献

【補助率】 10 / 10、1地区150万円以内

【事業の実施状況】



現地調査



猟具取扱い



集落マップ作成

1. 被害状況、目撃状況などを確認する『現地調査』
2. 上伊那式くくりわなの扱い方を勉強する『猟具取扱い』
3. 集落関係者による防護柵設置状況、わな設置場所などを記載した『集落マップ作成』

【進捗状況】

事業推進中：3市12地区（大垣市：2地区、郡上市：8地区、下呂市：2地区）
調整中：揖斐川町1地区、垂井町1地区

2 クマの出没状況と対策について



【ツキノワグマ 出没件数及び捕獲数等の状況】

年度	出没件数	捕獲数	人身事故件数
H22	833	274	5
H23	242	87	0
H24	396	135	3
H25	352	131	1
H26(11/14現在)	1, 229	288	7

← ドングリ凶作

← ドングリ凶作

【人身事故の概要】

月日	場所	被害	発生時の状況
6月28日	揖斐川町	軽傷1人	河川で鮎釣り中
6月30日	下呂市	軽傷1人	森林内を散策中
9月23日	白川村	軽傷2人	墓参り中
9月27日	高山市	軽傷1人	自宅前の路上
10月25日	飛騨市	軽傷1人	市街地の空き地
11月6日	高山市	死亡1人	果樹園をパトロール中
11月12日	高山市	重傷1人軽傷1人	カキの収穫作業中

クマ大量出没の背景

- ・冬眠前の主食となるドングリが平成22年以来の不作

クマ対策のポイント

- ・山に入る時は、鈴、ラジオなどで音を出してクマに人の存在を知らせる
- ・住宅や田畑周辺にエサとなるもの(果物、野菜のクズなど)を放置しない
- ・クマの出没の可能性がある地域では、早朝、夜間の外出を控える



○市町村に対する注意喚起

9月3日 ドングリ類が凶作であることを踏まえ大量出没が予想されることから、文書発出

11月7日 死亡事故を受け、文書発出。特に、早朝・夜間の外出時に要注意

○情報提供 県ホームページ上に、県内での目撃情報をGIS上に表記した「クママップ」を掲示

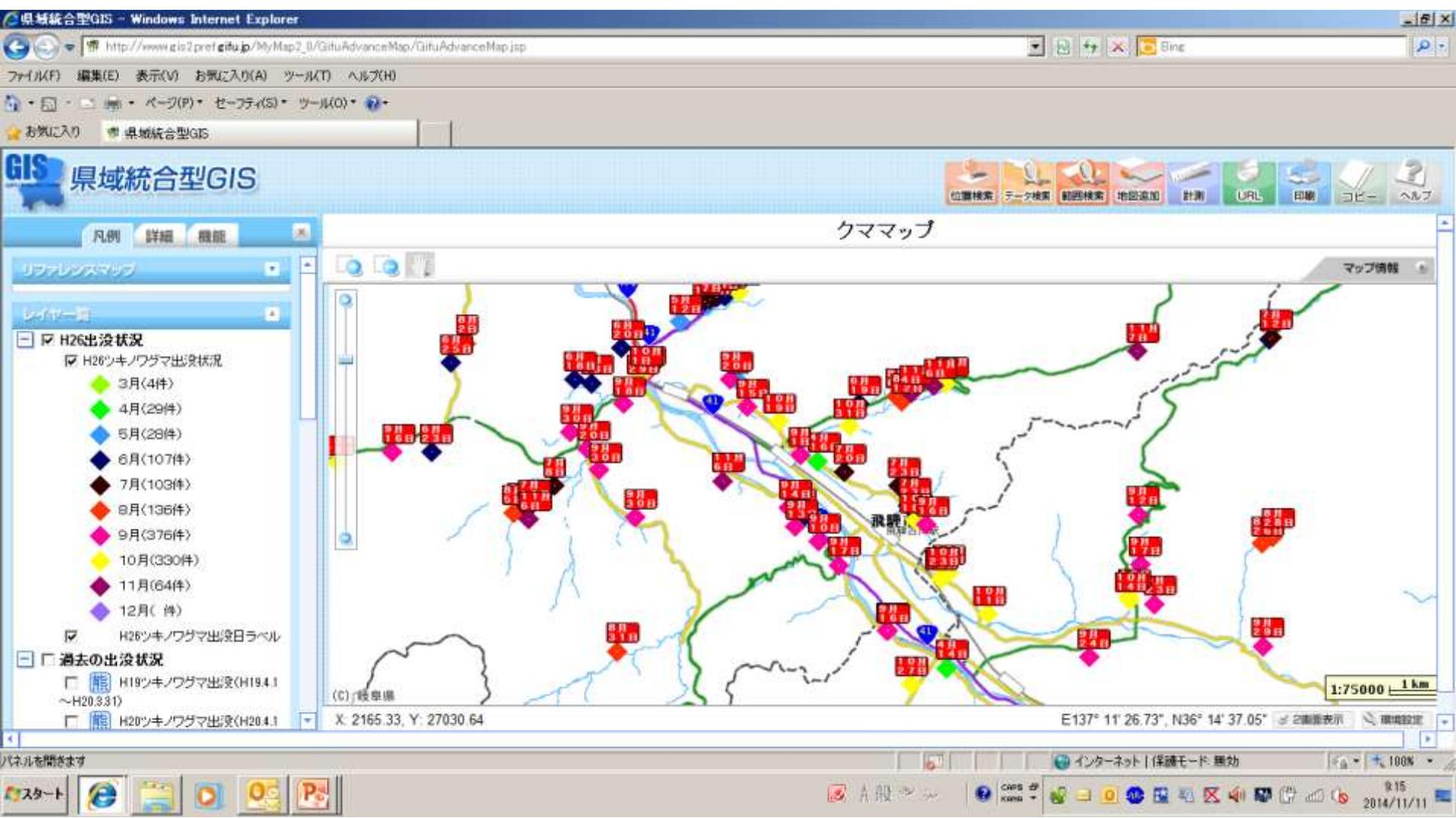
○アドバイザーを派遣

市町村の要請に応じ、市民向け講演会の講師として、岐阜大学応用生物科学部の専門員を派遣

◆クママップ

県内でのクマ目撃情報を、県域統合型GIS(岐阜県の地図)上でお知らせするもの

※図は平成26年11月11日現在(中央はJR飛騨古川駅)
<http://www.pref.gifu.lg.jp/kankyo/shizen/kuma/kuma-map.html>



3 獣肉の利活用促進について

(1) 衛生ガイドラインに準拠した施設

ぎふジビエ衛生ガイドライン(H25.11施行)策定後、県内各地域でガイドラインに準拠した解体処理施設ができた。

施設名称	市町村名	対象鳥獣	開設年月
所産業株式会社	揖斐川町	イノシシ、シカ	H25. 9
鹿・猪処理業 川治	揖斐川町	イノシシ、シカ	H24. 10
株式会社Highland Farm東濃	瑞浪市	イノシシ、シカ	H25. 3
ジビエ飛騨高山	高山市	イノシシ、シカ	H26. 8
飛騨ジビエ清見	高山市	イノシシ、シカ	H26. 9

※1 上記の他、関市、郡上市で処理施設を確認(ガイドライン啓発を実施)

※2 現在、解体処理業者の直営店舗等にて、ぎふジビエを利用したメニューを提供

- 蕎麦・和食処「喜更(きさら)」(揖斐川町谷汲、瑞穂市)・・・シカ串カツ(通年)、鍋(冬期)など
- 「ビストロ Mijoter(ミジョテ)」(岐阜市)・・・洋食コースで提供(冬期)など
- 「ビストロ エスカリエ」(名古屋市名駅前)・・・洋食コースで提供(冬期)、ソーセージ(通年)など
- 「Land to Table」(名古屋市名東区)・・・ソーセージ、テリーヌ、カレー(通年)など

(2) ぎふジビエ推進ネットワーク（仮称）の設立

「ぎふジビエ」(ぎふジビエ衛生ガイドラインに基づき解体処理を行った獣肉)を扱う処理施設や店舗が集まって民間のネットワークを組織し、販売を促進する仕組みを構築

【設立会議】

日時： 平成26年12月18日(木) 13:30～

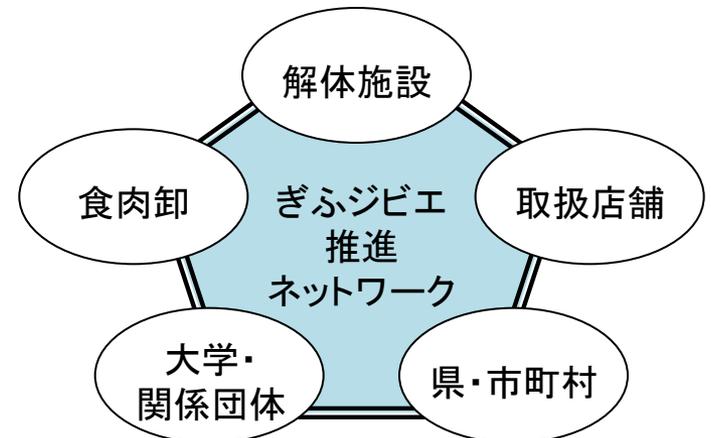
場所： 岐阜都ホテル「輝の間」

内容： ◎ネットワーク設立会議
◎基調講演(信州ジビエ研究会、信州大学 竹田准教授)
◎ジビエ料理試食(都ホテルによる創作料理)

参集者： 獣肉処理業者、取扱店、学識経験者、各種団体(県猟友会、県調理師連合会、等)、市町村、等〔50人程度〕

【ネットワークのイメージ】

「ぎふジビエ衛生ガイドライン」に基づき解体処理できる食肉処理業者を中心に、その業者と取引関係にある(ぎふジビエを取扱う)レストラン、小売店舗、流通業者、等と、さらには大学、関係団体等により構成



推進ネットワーク設立後の活動

◎ぎふジビエフェア(1月下旬)

ぎふジビエ推進ネットワークに参加した店舗を中心に、1週間ほどの期間限定で「ぎふジビエ」を扱った料理をPR。
10店舗程度を予定。



◎ぎふジビエ料理講習会(2月下旬)

調理師の方に対し、主にシカ肉を使った洋食メニューについて講習会を開催。
高山市で開催予定。



◎解体講習会(1月上旬)

ぎふジビエ衛生ガイドラインに基づく衛生的な解体処理方法について研修する。
揖斐川町で開催予定。

